教材名「うばわれた自由」

光村図書 5年 p150 「主として自分自身に関すること」 善悪の判断、自律、自由と責任、

1. 本教材について

▼本教材は時代背景等がまったくわからない。自由というのは歴史的に形成されてきた概念なので、時代背景が不明であることは内容理解のためには致命的である。そこで、社会科の学習とあわせて行うことにする。

▼本教材には2種類の自由が出てくる。ガリユールの自由と、王子、後に王となったジェラルルの自由である。教科書では『本当の自由』とは、どんなものだろう」という問があるが、時代背景がまったく不明なので、「ジェラルルの自由」はわがままに過ぎない、と結論が出て終わりになってしまうだろう。

2. 本教材を扱う際に、特に注意すべきだと考えたこと

▼本教材を、社会科での憲法学習とあわせてとりあげることで、「自由」を現実根ざして考えることが出来ると考える。したがって本教材は社会科での憲法学習の後か同時に取り上げるのがよい。

3. 指導過程

	子どもの活動や教師の発問等	留意点
導 入	本教材を通して読む。 文章で理解できないことなどが無いかな、確認する。 王子の行動をどう思うか聞く。	読むのは教師でも子どもでも良い。こんな王子が今いたらどう思うか、聞いても良い
展 開	ガリユールはなぜ自由をうばわれたのだろうか。自由をうばったのはだれだろうか。 社会科の教科書を使って憲法前文を読む。例として教育出版を取り上げる 日本国憲法前文には「国内に自由のめぐみをみなぎらせることが国民を幸福にするものであると信じる」(教育出版「小学社会6年下」p29)と書いてある。自由のめぐみとは？幸福との関連は？ここで書かれている「自由」とはガリユールの自由だろうか、それとも王子、後に王となったジェラルルの自由だろうか。 もし憲法下でジェラルルのような王さまがいたらジェラルルは勝手気ままに行動できるだろうか。	6年生の社会科では、戦争中、子どもまで自由がうばわれたことが書かれている。教育出版「小学校社会6年下」p124参照。各校で使用している社会科教科書を確認。
ま と め	学校で「自由がない」と思うのはどんなときか、振り返りに書く。	「自由」と身の回りの学校生活を結びつけて考えることを促す。

参考資料

▼現在使われている社会科教科書の憲法の訳

日本文教「自由のもたらす恵みを国土の全体にわたって確かなものにし」

光村「自由のすばらしさを守り」

東書「国全土にわたって自由のもたらすすばらしさをみなぎらせ」

教育出版 「国内に自由のめぐみをみなぎらせることが、国民を幸福にするものであると信じる。」